

令和元年度

「新しい東北」官民連携推進協議会

活動報告

2020年3月5日

● 協議会の現状

協議会及び分科会の構成

「新しい東北」官民連携推進協議会（平成25年12月17日設立）

- 民間企業・大学・NPO等各種団体・地方自治体から構成（1,312団体（令和2年2月29日現在））。
- 官民の様々な主体の間で連携を生み出し、復興を契機とした新たな挑戦を促進。
- 具体的には、ウェブサイトや会員交流会の場で、各主体に関する情報（課題、ノウハウ、リソース）の共有や連携を促進。

各種課題に対応するため、協議会の下に3分科会を設置して活動

地域づくりネットワーク

（平成27年2月設立）

- 被災地の地方自治体から構成（71団体）。
- 「被災地内外との緩やかなつながりの構築」「地域をけん引するリーダーの育成」に重点を置き、地域課題解決に向けた取組の継続的な実践・自走化を支援するため、「地域づくりハンズオン支援事業」を実施。地域課題の解決に取り組む自治体、NPOなどに対して各種取組やニーズに応じたきめ細かな伴走型の支援を実施。

復興金融ネットワーク

（平成26年7月設立）

- 金融機関等から構成（35団体）。
- 官主導の取組による復旧から、民主導の取組による本格的な復興への橋渡しを行うため、金融機関等に対し、産業復興に関する情報の提供等を実施。
- 被災地の事業者に対して資金供給を呼び込むため、平成26年度から「新しい東北」復興ビジネスコンテストを開催。優良な取組を発掘するとともに、事業化や事業の発展に向けた効果的な支援を実施。

企業連携グループ

（平成27年4月設立）

- 企業復興支援ネットワーク、専門家派遣集中支援事業、販路開拓支援チームなどの機能を集約して提供。
- 民間企業と被災自治体、被災地企業と外部企業などが連携して展開する事業への支援および事例集作成やフェイスブックによる情報発信等を実施。

● 分科会の活動

地域づくりネットワーク

- 地域課題の解決に取り組む自治体、NPOなどに対し伴走型の支援を行う「地域づくりハンズオン支援事業」を実施。
- 事業においては、「被災地内外との緩やかなつながりの構築」と「地域をけん引するリーダーの育成」に重点を置いた支援を行い、地域課題解決に向けた取組の継続的実践・自走化を目指す。
- 令和元年度は、8つの支援対象団体へ、年間を通じた伴走型支援を実施。また、支援対象団体が一堂に会して学びあう、交流会型研修を実施。

令和元年度支援対象団体

団体名	プロジェクト名
NPO法人のんのりのだ物語（岩手県野田村）	野田村dream upプロジェクト
一般社団法人燈（岩手県田野畑村）	田野畑「きょういく」魅力化プロジェクト
一般社団法人根浜MIND（岩手県釜石市）	多様な「楽しい！」を提供する海辺づくり&国内外の人々が学ぶ防災教育環境づくりプロジェクト
雄勝町渚泊推進協議会（宮城県石巻市）	石巻市雄勝町の漁業を活かした交流人口拡大プロジェクト
一般社団法人パイオニズム（福島県南相馬市）	小高パイオニアヴィレッジプロジェクト
一般社団法人葛力創造舎（福島県葛尾村・郡山市）	持続可能な地域づくりのための次世代人材の育成プロジェクト
NPO法人広野わいわいプロジェクト（福島県広野町）	「そうだ、広野に行こう！」プロジェクト
いわき・双葉の子育て応援コミュニティ cotohana（福島県双葉郡・いわき市）	ふたばの子育て世代応援プロジェクト

● 交流会型研修

支援対象団体等、地域の担い手の育成や、地域課題解決に向けた取組の促進、相互のネットワークの構築に資するよう研修を実施

● 分科会の活動

復興金融ネットワーク

- 民間企業の協賛・協力による「『新しい東北』復興ビジネスコンテスト」を実施。大賞1件のほか、優秀賞4件、協賛企業による企業賞13件を表彰。受賞者には専門家訪問指導やプロモーション活動体験等、各種特典を用意。

「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2019表彰式
(令和元年11月22日(金) 31 Builedge 霞が関プラザホール)

- 表彰
- 受賞者代表による取組紹介
- 記念撮影
- 受賞者スピーチ
- ミニブース展示



- 復興金融ネットワークメンバーによる活動は以下の通り。

取組内容	概要	
復興金融ネットワーク 全体会合	令和元年10月2日(水)	<ul style="list-style-type: none">● 復興金融ネットワークの昨年度の活動及び今年度の活動について● 復興の現状・取組について● 事業承継・販路開拓に関する先行事例の紹介
	令和2年2月14日(金)	<ul style="list-style-type: none">● ビジネスコンテストの結果について● 分科会とりまとめの発表● 復興金融ネットワークメンバーの取組● 復興庁の取組紹介
復興金融ネットワーク 分科会	<ul style="list-style-type: none">● メンバー同士の闊達な意見交換を目的に「海外販路開拓」「インバウンド・観光振興」の2分科会を設置、メンバーを募集● 令和元年12月～令和2年1月にかけて、上記テーマの課題や取組の方向性の議論を2回実施	
取組事例収集	<ul style="list-style-type: none">● 復興金融ネットワークメンバーの復興に関する活動を把握、可視化、活動成果を積極的に情報発信することを目的● 収集事例は復興金融ネットワークホームページ上で順次公開予定	

● 分科会の活動

企業連携グループ

地域復興マッチング「結の場」

○ワークショップを開催し、大手企業と被災地域企業との対話の場を提供。(全3回)

令和元年10月23日 宮城県東部地方(※) 令和元年11月11日 福島県いわき市

令和元年11月20日 岩手県いわて三陸 ※石巻市、東松島市、女川町



ワークショップの様子

被災地域企業新事業ハンズオン支援事業

○被災地域における新産業の創出につながる新たな事業へのハンズオン支援

＜グループ支援＞6件(大槻町、宮古市、石巻市、名取市、相馬市、郡山市) (令和元年度実績)



被災地産品の販路拡大支援

専門家派遣集中支援事業

○豊富な経験・ノウハウを持つ専門家を派遣し、被災地域における新たな事業等を支援

42件支援実施(平成30年度実績)



事例集作成による情報発信

○岩手・宮城・福島の3県の企業や団体が、業種や地域の特性、培ってきた知見や創意工夫を活用した「挑戦」を紹介。令和元年度も30事業者を取材し事例集として編さんしたほか、被災3県に関連したイベントへの出展やセミナーなどを実施し、各企業の産業復興事例を共有した。

東日本大震災から9年
～持続可能な未来のために～

岩手・宮城・福島の
産業復興事例集30
2019-2020

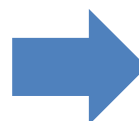


● Fw:東北 Fan Meeting

Fw:東北 Fan Meeting

- 「新しい東北」官民連携推進協議会の連携づくりを通じ、首都圏を含めた「新しい東北」の創造に関心がある方の交流、情報発信の強化及び東北のファンづくり強化を目指し「Fw:東北 Fan Meeting」を企画・実施。
- 東北で活動している方の様々な取組の成果や課題の共有、地域課題解決にむけた「場の設計/提供」を実施。
- 令和元年度は、6月からトータル23回実施。
- 被災地で地域課題解決に取り組む団体の促進や効果的な実施を促進するため、これらの団体の職員等を対象にしたファシリテーター育成研修を、宮城県仙台市及び福島県郡山市にて実施。

- 1 : NPO、企業、自治体等から情報発信や課題解決したいテーマを企画。
- 2 : 都内を中心に各地でワークショップをほぼ毎週のペースで開催。
- 3 : SNS等を活用し、事業の運営、成果等を内外に情報発信。



- 登壇者及び参加者の中で多種の役割・機能を持つ者が互いにつながりあいをもつ。
- 参加者が自分事として考え、必要な人脈形成、連携・パートナーづくりを自ら行う。

【実施例】



SNSやWEBサイトを活用した情報発信
(告知動画やイベント実施後のレポートも掲載)



チラシ等作成



広報物（フラッグ）
を用いた集合写真



月刊ソトコト
で紹介

● 令和元年度「新しい東北」復興・創生顕彰

概要

- 平成28年度から「新しい東北」の創造に向けた取組について大きな貢献をされている方を顕彰する「新しい東北」復興・創生顕彰を実施。
- 令和元年度「新しい東北」復興・創生顕彰では、全国から寄せられた計147件の取組の中から、外部有識者による選定委員会を経て9件を選定。
- また、平成30年度受賞者の取組についてフォローアップを行い、「新しい東北」ポータルサイト上に記事を掲載するとともに、事例集を作成・配布。

<令和元年度募集結果（令和元年9月2日（月）～9月30日（月）公募）>
・応募件数 147件

<選定結果：受賞者一覧>

岩手県大槌町	一般社団法人 大槌新聞社
岩手県大船渡市	特定非営利活動法人 居場所創造プロジェクト
宮城県石巻市	一般社団法人 ISHINOMAKI2.0
宮城県石巻市	特定非営利活動法人 石巻復興支援ネットワーク
宮城県気仙沼市	半島移住女子「ペンターン女子」
宮城県山元町	特定非営利活動法人 ポラリス
福島県郡山市	特定非営利活動法人 しんせい
福島県二本松市	特定非営利活動法人 がんばろう福島、農業者の会
福島県双葉町	町民有志の会「夢ふたば人」

<「新しい東北」事例集：平成30年度受賞者の取組>



● 令和元年度「新しい東北」交流会（令和2年2月14日（金）開催）

概要

- 「東北の未来を考えよう」をテーマに、「新しい東北」官民連携推進協議会の会員同士及び会員と一般の方々との交流を通じた連携・協働の促進、情報発信を目的に、宮城県仙台市の仙台サンプラザで開催。
- 「新しい東北」復興・創生顕彰および「企業による産業復興事例」の顕彰式、活動紹介を実施。
- 被災地で生まれ・広がった自治体、企業、NPOなどの様々な団体の今後の取組について意見交換を行い、被災地が抱える課題に今後どのように向き合い、どのような展望を描いて課題解決に更に取り組んでいくかを検討する一助とするため、多彩なプログラムを展開。

顕彰式・活動紹介

- ・令和元年度の「新しい東北」復興・創生顕彰、「企業による産業復興事例」顕彰の顕彰式
- ・上記受賞者と「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2019受賞者による活動紹介

基調講演・パネルディスカッション

- ・基調講演：復興から地方創生へ ～東北の魅力を生かしたまちづくり～
講師：藻谷 浩介氏（株式会社日本総合研究所 主席研究員）
- ・パネルディスカッション：未来の東北のためにできること
モデレーター：藻谷 浩介氏／パネリスト：佐藤 満（島根県雲南市 政策企画部 部長）、三浦 まり江氏（陸前高田まちづくり協働センター 代表理事）、鈴木 賢治氏（株式会社夜明け市場 代表取締役）、根岸 えま氏（ペンターン女子）

多彩なテーマのプログラム

- ・多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証
- ・小規模企業のための販路拡大支援～地域経済の未来を拓こう～
- ・被災地（東北）の未来に向けた組織づくり×人づくり
- ・クラウドファンディングでもっと広がる！ 東北の未来の可能性
- ・男女共同参画の視点を生かして、東北の未来を考える

ブース展示

- ・顕彰受賞者、復興庁事業関係企業・団体、「新しい東北」官民連携推進協議会会員等によるブース出展

顕彰式の様子

「新しい東北」復興・創生顕彰受賞者記念撮影



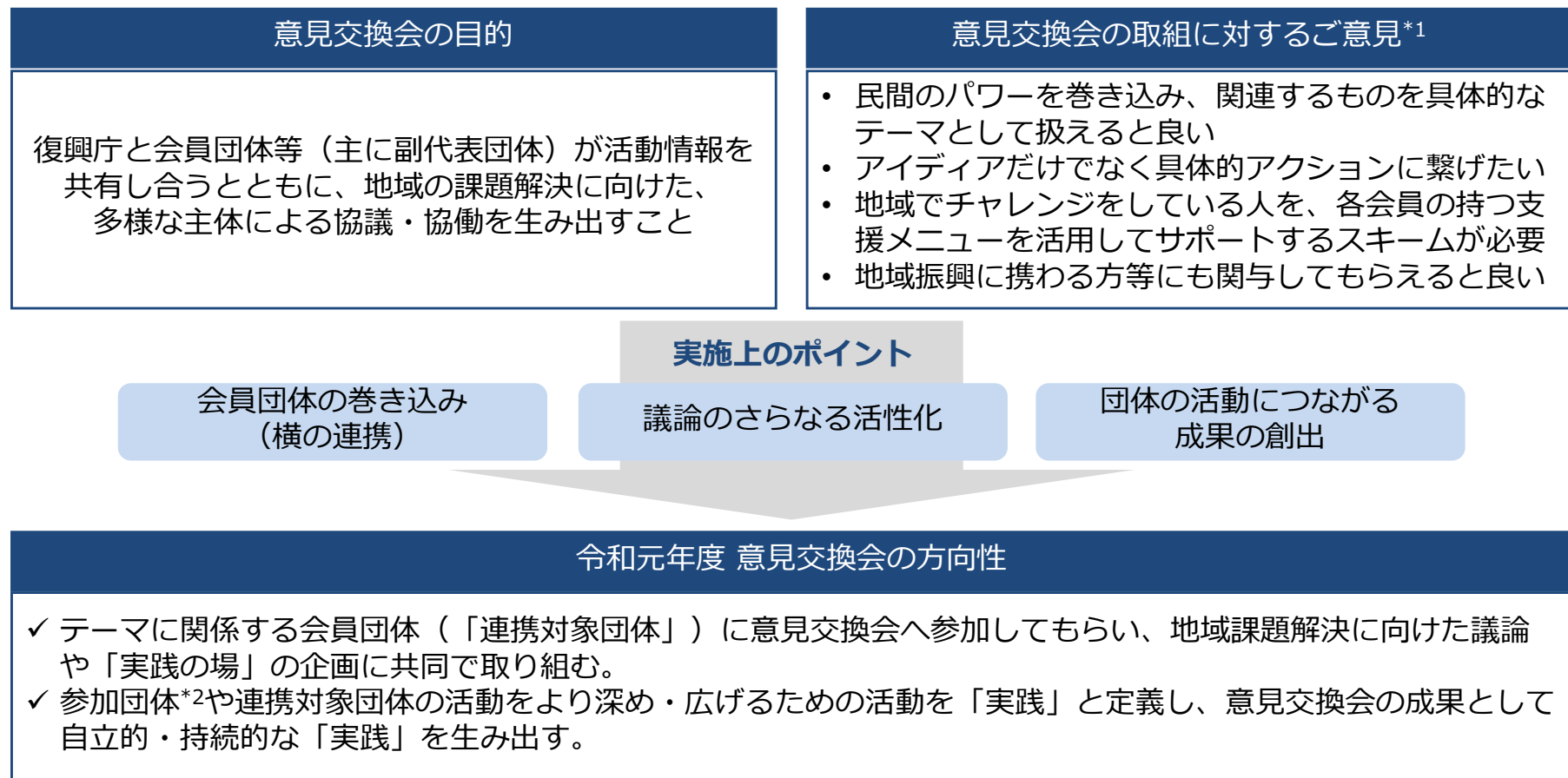
「企業による産業復興事例」顕彰受賞者記念撮影



● 3県での意見交換会の開催

今年度の方向性

今年度の意見交換会では特に、副代表団体以外の会員団体の巻き込み・議論の活性化・団体の活動につながる成果創出に注力して取り組みました。



^{*1}: 3県の第3回意見交換会内の発言を一部引用

^{*2}: 副代表団体およびオブザーバーとして参加いただく団体

● 3県での意見交換会の開催

岩手県

1. 活動記録

第1回（6/27（木））

- 各団体の取組紹介
- 今年度の意見交換会の説明
- 意見交換
 - テーマの検討
 - 「実践の場」の方針検討

第2回（9/4（木））

- 各団体の取組紹介
- これまでの振り返り
- 連携対象団体からの情報共有
- 意見交換
 - 「実践の場」詳細検討

実践の場（11/25（月））

「さんりく事業成長セミナー・交流会」を開催

いわて産業振興センター
（岩手県プロ人材拠点）が参画

第3回（1/20（月））

- 各団体の取組紹介
- 「実践の場」開催報告
- 意見交換
 - 「実践の場」振り返りと次年度の取組

2. 実施企画の議論

岩手県三陸沿岸の担い手不足を課題として設定し、企業やNPOなどの現役経営者および次世代リーダー（起業検討中の方や先代からの事業承継を控えた方など）に対して、行政と民間支援機関が連携して事業成長を支援する取組を行うこととした。数多くある支援策の特徴や活用事例を知ってもらうことを目的とした、各機関の支援策を紹介するセミナーや相談会と、業界・セクターの枠を越えた経営層の繋がりをつくるための交流会を企画した。

3. 「さんりく事業成長セミナー・交流会 ～オール岩手で経営層をサポートします！～」の実施概要（令和元年11月25日開催）

三陸沿岸地域の経営層を対象に、事業成長に必要な「魅力発見～発信～人材確保」「資金調達」「産学連携」「NPOと企業の連携」をテーマにセミナーや、相談会・交流会を開催した。

- 場所：大船渡市 市民交流館カメリアホール
- 参加者：15名（大船渡市、大槌町、釜石市などの事業者）
- 登壇者：いわて産業振興センター（岩手県プロ人材拠点）、岩手県
いわぎん事業創造キャピタル、いわて連携復興センター、岩手大学

支援機関等が一体となって沿岸部の経営層の相談・交流の場を設ける試み自体は好評であった。ただし課題整理の段階でお困りの経営層が多かったことから、個別相談で課題を深掘りする方法が望ましかったのではないか、という示唆を得た。



● 3 県での意見交換会の開催

宮城県

1. 活動記録

第1回（6/13（木））

- 各団体の取組紹介
- 今年度の意見交換会の説明
- 意見交換
 - テーマの検討
 - 「実践の場」の方針検討

第2回（10/18（金））

- 各団体の取組紹介
- これまでの振り返り
- 連携対象団体からの情報共有
- 意見交換
 - 「実践の場」詳細検討

実践の場（1/24（金））

「牡蠣で東松島を盛り上げよう！」集中検討会を開催

東松島市、貴凜庁（株）、東松島あんてなしょっぷまちんどが参画

第3回（2/17（月））

- 各団体の取組紹介
- 「実践の場」開催報告
- 意見交換
 - 「実践の場」振り返りと次年度の取組

2. 実施企画の議論

今年度は宮城県沿岸地域の仕事の担い手不足を課題として設定し、東松島市の観光に焦点を当てた取組を行うこととした。東松島の観光に関しては、関係者からの聞き取りによれば、人手不足よりも能力不足や継続的な連携を牽引する担い手の不足が課題であり、さらに、SDGs未来都市として市の住民や民間団体がSDGsを正しく理解し行動することが求められている。この状況を踏まえ、観光とSDGsを組み合わせた取組を地域一体で生み出すためのきっかけとして、集中検討会を企画した。

3. 「牡蠣で東松島を盛り上げよう！～牡蠣を観光まちづくりのシンボルに～」 集中検討会の実施概要（令和2年1月24日開催）

市内の団体が連携して取り組む「東松島の牡蠣を用いた観光企画」をテーマとして、7チームに分かれてディスカッションを行う集中検討会を開催。自立的・持続的に企画が実行されるよう、観光企画の具体案だけでなく、関連するSDGsの目標やキャッチコピー、直近の実行計画案までを議論し発表した。

●場所：東松島市 矢本西市民センター

●参加者：31名（市内の企業、牡蠣・野菜の生産者、市民など）

※その他 協議会参加団体や市職員など合わせて30名以上が当日協力



SDGsの達成を意識しながら観光まちづくりを目指すという課題設定が、地域一体となった活発な意見交換や、今後も自立的・持続的に活動する意欲喚起につながり、参加者から満足の声が上がった。

● 3県での意見交換会の開催

福島県

1. 活動記録

第1回（6/18（火））

- 各団体の取組紹介
- 今年度の意見交換会の説明
- 意見交換
 - テーマの検討
 - 「実践の場」の方針検討

第2回（9/10（火））

- 各団体の取組紹介
- これまでの振り返り
- 連携対象団体からの情報共有
- 意見交換
 - 「実践の場」詳細検討

実践の場（12/8（日））

「ふくしまキャリア探求ゼミ～自分らしいキャリアデザインを考えよう～」を開催

NPO法人コースターが参画

第3回（1/31（金））

- 各団体の取組紹介
- 「実践の場」開催報告
- 意見交換
 - 「実践の場」振り返りと次年度の取組

2. 実施企画の議論

福島県では若者の県外流出が地域課題として挙げられ、昨年度から引き続き、福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進（魅力付け）をテーマに取組を行うこととした。

身近で地道に活動されている方も含めて昨年度よりも幅広くゲストを迎え、県内在住の高校生・大学生をメインターゲットとして福島での働き方を知ってもらうための場を企画した。

3. 「ふくしまキャリア探求ゼミ～自分らしいキャリアデザインを考えよう～」の実施概要（令和元年12月8日開催）

金融、酪農、ものづくり、ビジネス創出、弁護士やパティシエ…様々な分野で活躍している7名の登壇者を招き、登壇者の過去・現在・未来のキャリアや価値観について知る車座形式での対話と、本イベントでの気づきや参加者自身のキャリアデザインを考えるワークを実施。

- 場所：福島市 子どもの夢を育む施設 こむこむ
- 参加者：30名（福島県内の高校生・大学生、県外在住の大学生、県職員など）
- 登壇者：
 - （株）東邦銀行 石川 淳一 様
 - （株）Blue porte 青戸 明美 様
 - （株）タカワ精密 渡邊 光貴 様
 - 一般社団法人Switch 久保田 健一 様
 - （株）関美工堂 関 昌邦 様
 - いわき法律事務所 菅波 香織 様
 - ファームつばさ 清水 大翼 様



参加者からは「様々な経験をもつ登壇者との対話することで視野が広がった」「自分の将来を考えることができた」と前向きなコメントが多く、全体の満足度も非常に高かった。ただし、集客時の魅力訴求方法については改善余地ありとの教訓を得た。

● 民間等の関係者との連携強化

連携支援制度

今年度の連携支援制度は、復興・創生期間の終了を見据え、昨年度から支援金額や利用回数の上限を変更しました。令和2年2月現在、3件の事業が採択されています。

- 協議会会員が他団体と連携して取り組む課題解決に向けた勉強会やワークショップ等の開催経費の支援や、周知広報の協力により、会員の取組の様子を他の会員等にPRすることで、会員の連携推進を図る制度（平成27年8月創設）
- 復興・創生期間の終了を見据え、支援金額を10万円に減額（昨年度30万円）し、年間2回の利用上限（連携制度全体）を設定

■これまでの支援実績（平成31年度支援採択3件（令和2年2月時点））

	団体名	事業名
1	特定非営利活動法人いしのまきNPOセンター	イベント情報発信ツール「ためまっぷ」初級講座
2	株式会社スペースワン	地産地贈プロジェクトふくしま“いいもの”試食勉強会
3	株式会社スペースワン	商品撮影・パッケージ勉強会

■支援例

イベント情報発信ツール「ためまっぷ」初級講座
（特定非営利活動法人いしのまきNPOセンター）

開催概要：

申請団体が運営する「石巻市NPO支援オフィス」では、市内のNPOが主催するイベント等の周知を実施しているが、イベント等対象である市民や団体に情報が届いていない現状があり、情報発信力の強化が課題となっている。
市内NPOと共に情報発信力を向上させる為、イベント情報発信ツール「ためまっぷ」に携わる和田 菜水子氏を招いた講座を9月18日に実施した。

参加団体は、「ためまっぷ」の活用した情報発信について理解を深めただけでなく、イベントのターゲット層を明確にして様々な発信媒体を組み合わせる必要があることを学んだ。
今後は、「ためまっぷ」の試験運用を通じて複数のNPOが連携して情報を発信するだけでなく、情報の受け手を増やす動きを進めていく。

● 民間等の関係者との連携強化

連携セミナー制度

今年度の連携セミナー制度は、復興・創生期間の終了を見据え、対象となるイベント内容や、支援金額及び利用回数の上限を変更しました。令和2年2月現在、2件の事業が採択されています。

- 会員による「新しい東北」の創造に向けた活動に関する公開型のセミナー、ワークショップ等の開催経費の支援や、周知広報の協力を実施（平成27年8月創設）
- 復興・創生期間の終了を見据え、支援金額を30万円に減額（昨年度は50万円）し、年間2回の利用上限（連携制度全体）を設定
- 加えて、昨年度は、「一般の方々が広く参加でき参加者間の連携促進・交流を目的とした」イベントであることが要件だったが、今年度は「成果が出ている活動を普及・展開、あるいは情報発信する」又は「広く一般の人からアイデアを募る」イベントを要件とした。

■これまでの支援実績（令和元年度支援採択2件（令和2年2月時点））

	団体名	事業名
1	特定非営利活動法人ワンアース	中学生による復興と伝承のセミナー 高知県開催
2	JIA(日本建築家協会東北支部) 宮城	アーキテクツウィーク2019

■支援例

中学生による復興と伝承のセミナー・高知県開催
（特定非営利活動法人ワンアース）

開催概要：

東日本大震災の記憶と教訓、そして復興に関わる中学生主体のユニークな取り組みを伝えるために、気仙沼市立大島中学校の生徒代表らが高知県を訪問し、仁淀川町の全中学生参加のもとセミナーと交流を行った。8月6日実施。

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県の気仙沼大島では、主催団体の活動により、2012年にきぼうの桜（宇宙桜）が仁淀川町から贈呈されている。

2019年に本土と島を繋ぐ架橋の完成することにあわせ、島に新たにウェルカムターミナルが建設されることになり、中学生がシンボルとして新たなきぼうの桜を植樹することを提案、採用に至った。

セミナーでは、以上の経緯が、主催団体及び中心となった気仙沼の中学生から説明された。

今後も、中学生などの若い世代が活動の主役となって、復興への取組を東北地方以外へ広める活動を進めていく予定である。

● 協議会の現状

会員団体の構成

総会員数は、昨年度と比較して、ほぼ横ばいです。また、被災3県内の会員数が総会員数の過半数を占めております。

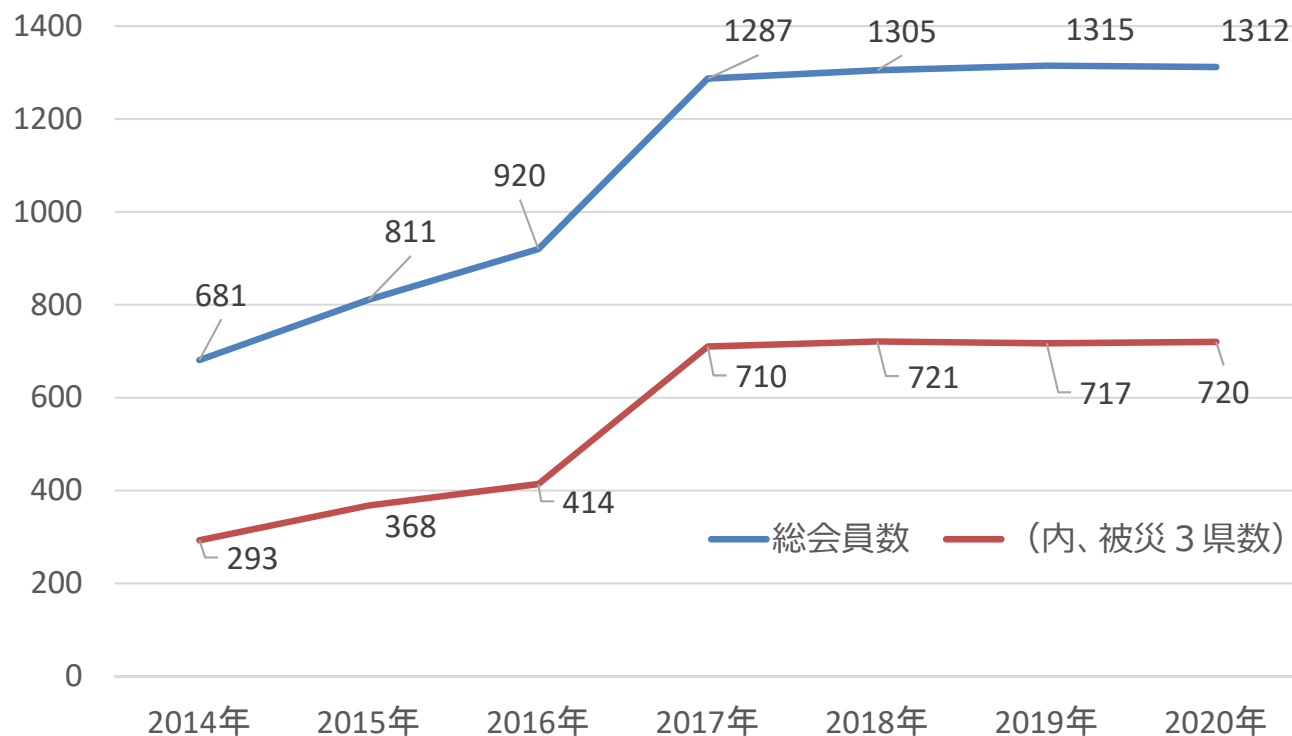
(1) 会員団体の属性 ※令和2年2月29日時点

カテゴリ	団体数	割合
代表・副代表	21	2%
経済団体	85	6%
民間企業	412	31%
各種協同組合等	61	5%
NPO法人	49	4%
公益法人等	125	9%
独立行政法人等	19	1%
大学等	114	9%
先導モデル事業	231	18%
地方自治体等（都道府県）	37	3%
地方自治体等（市町村）	134	10%
府省庁	24	2%
合計	1312	100%

【被災3県内の団体の割合】

所在地（県）	団体数	割合
被災3県合計	720	55%
岩手県	134	10%
宮城県	338	26%
福島県	248	19%
被災3県以外	592	45%
合計	1312	100%

(2) 会員数の推移



※2020年末のみ、2月29日時点の数値

● ポータルサイトを通じた情報発信

ウェブサイトの活用

今年度は、昨年度と比べポータルサイトのPV数、ユーザー数共に減少しています。

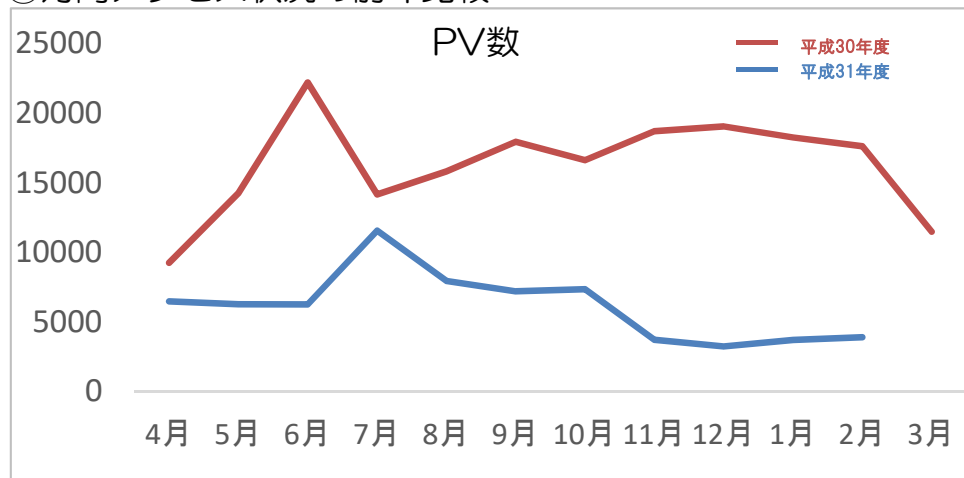
○ アクセス管理状況等からの活用状況

・ 令和2年2月までのWEBサイトアクセス情報

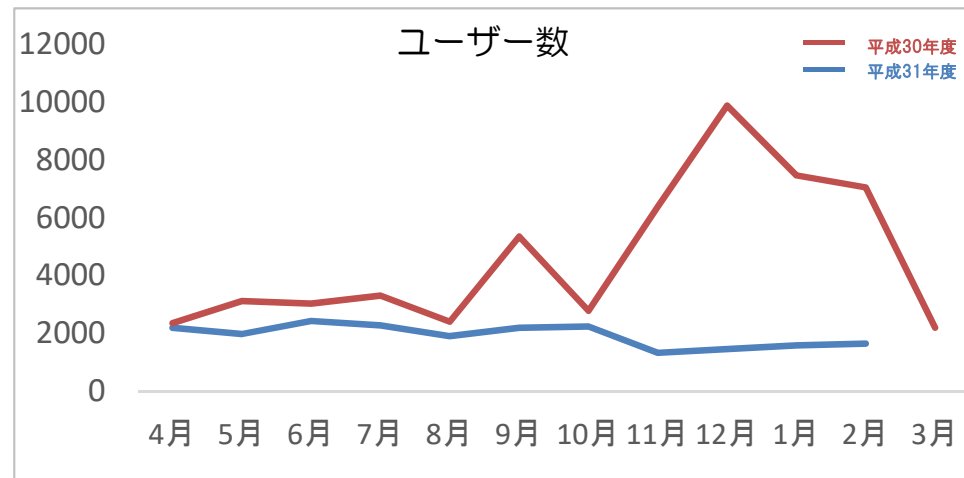
① 月別アクセスサマリ

項目	4月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
セッション	3,274	2,437	2,750	2,865	2,922	2,481	2,951	3,453	2,714	1,680	1,865	1,908
ユーザー数	2,120	2,200	1,983	2,435	2,283	1,916	2,201	2,245	1,337	1,467	1,593	1,653
PV数	9,257	6,487	6,276	6,265	11,569	7,959	7,213	7,357	3,723	3,241	3,715	3,910
PV/セッション	2.83	2.66	2.28	2.19	3.96	3.21	2.44	2.13	1.37	1.93	1.99	2.05
平均セッション時間	2:18	4:12	20:37	6:08	1:38	1:21	1:24	1:43	1:43	1:33	1:34	1:26
直帰率	63.9%	80.5%	66.9%	68.1%	60.4%	56.9%	48.4%	64.6%	65.9%	65.5%	63.2%	64.4%
新規セッション率	82.2%	88.2%	85.0%	80.8%	79.4%	69.9%	73.3%	87.3%	88.7%	83.4%	86.2%	87.0%

② 月間アクセス状況の前年比較



平成30年度 合計 195,473
令和元年度 合計 67,715 (2/29時点)



平成30年度 合計 55,318
令和元年度 合計 21,313 (2/29時点)

● ポータルサイトを通じた情報発信

ウェブサイトの改修

令和元年10月、会員間の連携推進のためポータルサイトを全面的に改修。特に、トップページの利便性向上及び、検索機能の強化を実施しました。

● トップページの利便性向上

- ホームページへの訪問者から掲載コンテンツが一目でわかるように、TOPページに情報を集約
- イベント情報・お知らせを大きく掲載することで、訪問者が更新情報を容易に把握することを可能とした

● 検索機能の強化

- 会員間の連携を促進するために、情報絞り込みのカテゴリ表示など、検索機能を強化
- 検索結果の表示画面を改善し、訪問者が目的とする情報への到達容易性を向上
- 「会員名簿」「会員の取組」「お知らせ」「イベント情報」「利用できる制度（連携支援制度・連携セミナー制度）」において検索機能を導入

トップページ



検索画面（会員の取組）



● ポータルサイトを通じた情報発信

認知の拡大① メールマガジンの発信

昨年度8月から、協議会会員及びメールマガジン会員（約1,400先）にむけてメールマガジンを配信しております。今年度は、記載情報の充実及び情報到達度の向上のため、関連先からの情報収集、対象属性タグを付与を実施しました。

● 関連先からの情報収集

- イベントや助成情報等、協議会会員へ有益と思われる情報を収集し、メールマガジンを通じて発信

<収集先HP>

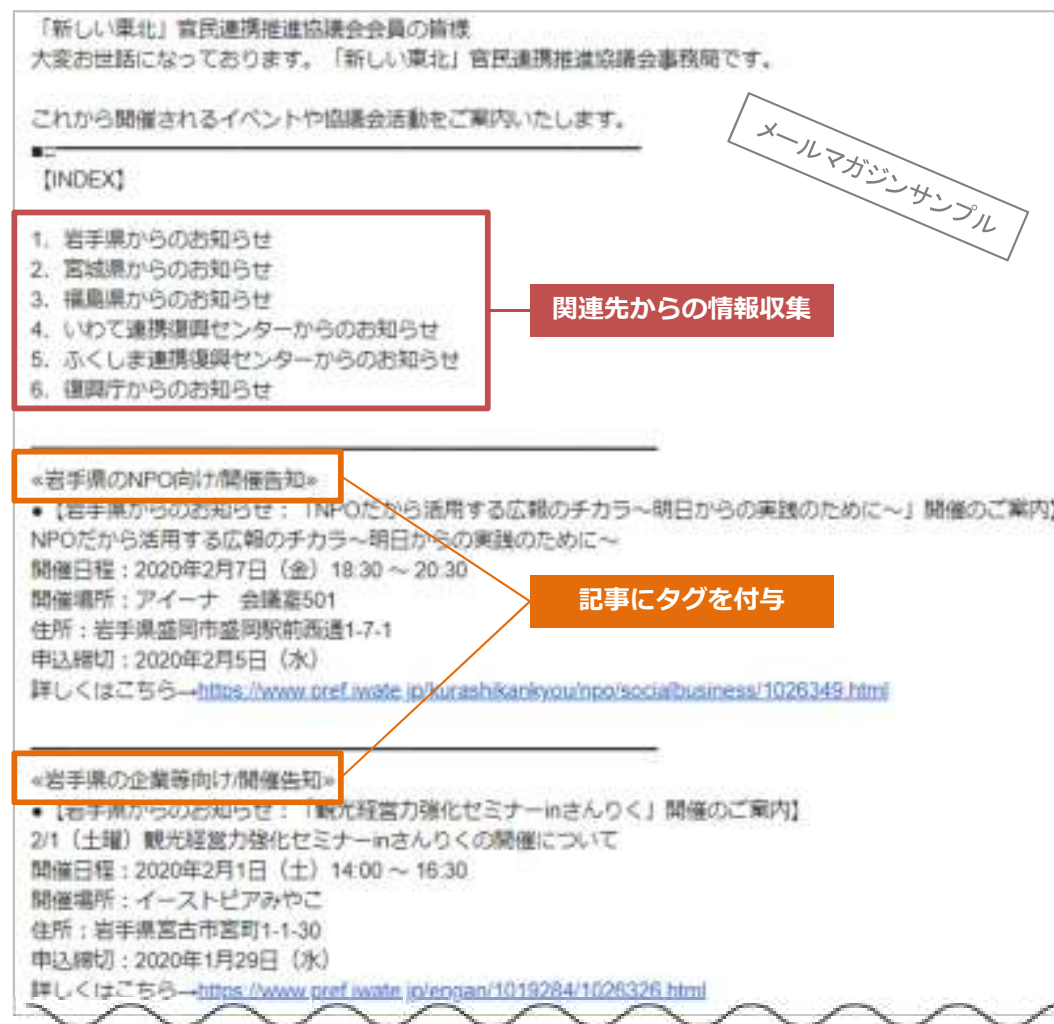
復興庁・3県の県庁・連携復興センター

● 記事毎に対象属性タグを付与

- 記事毎に対象属性（団体種別及び地域）を記載することで情報の対象者を明確化し、情報が対象者に到達するよう工夫

<例>

団体種別：NPO・企業・団体・個人 など
地域：岩手県・宮城県・福島県・首都圏 など




● ポータルサイトを通じた情報発信

認知の拡大② SNSでの情報配信

Facebookを用いて各種イベント情報を発信し、協議会活動の認知向上を図る。閲覧状況や情報の拡散に対しては、月次で集計し効果を計測。

項目	2019年						2020年				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
投稿数	0	2	1	5	3	4	1	6	1	1	4
リーチ数	0	749	356	1,237	784	719	179	979	245	531	944
投稿クリック数	0	22	11	18	20	21	6	14	3	25	32
コメント、シェア数	0	6	9	17	26	6	1	10	5	12	25

公開日時	投稿	タイプ	ターゲット設定	リーチ	エンゲージメント
2019/11/22 10:15	 【いわて連携復興センターからのお知らせ：イベント情報】	📄	🌐	193	3 3
2019/11/21 10:01	 「新しい東北」官民連携推進協議会が営業時間を更新します	📄	🌐	120	1 0
2019/11/21 10:00	 【WATALISからののお知らせ：イベント情報】「新しい東北」官民連携推進協議会	📄	🌐	133	2 1
2019/11/20 16:26	 【復興庁からののお知らせ：イベント情報】「新しい東北」	📄	🌐	139	0 0
2019/11/20 9:41	 【復興庁からののお知らせ：イベント情報】「新しい東北」	📄	🌐	210	6 6
2019/11/18 14:54	 【東京都からののお知らせ：イベント情報】「新しい東北」	📄	🌐	194	2 0

■ クリック数
■ コメント・シェア数



「新しい東北」官民連携推進協議会
2019年11月21日

【WATALISからののお知らせ：イベント情報】

「新しい東北」官民連携推進協議会 事務局です。
フラワーアレンジメントワークショップについてご案内申し上げます。
被災地にお住まいの方はどなたでも参加可能です。

「心を癒すハンドメイドワークショップ」
フラワーアレンジメント（お正月）＜アーティフィシャルフラワー＞
開催日程：2019年11月26日（火）午前10：00～12：00 午後13：00～15：00
開催場所：アトリエ6所 中町カフェ（一般社団法人WATALIS内）
住所：宮城県亶理郡亶理町中町22
TEL: 0223-35-7341
申込方法：お電話、もしくは一般社団法人WATALISの窓口にて直接お申し込みください。
詳細はこちらから
<https://watalis-jmdo.com/jka補助事業/>

WATALIS JMDO.COM

JKA補助事業（競輪&オートレースの補助事業）

WATALISは平成28年度からこの補助事業の対象となり、平井ことワークショップを開催させていただいております。競輪&オートレースの補助事業に関する詳細は...

👍 いいね！

💬 コメント

🔗 シェアする